

御指導いただき、便宜をはかっていただきました。厚く御礼申し上げます。

参考文献

和田英夫 (1969) : 長期予報新講, 地人書館, p. 129.
朝倉正・久保木光熙 (1962) : 降水量の長期予報 (第2報) p. 2~3.

渡辺春海 (1970) : 全国長期予報技術検討会資料 (鹿児島) p. 31~32.

竹永一雄 (1960) : 研究時報, 12巻, p. 344~345.
久保木光熙・朝倉正 (1963) : 研究時報, 15巻, p. 187~202.

関根勇八 (1970), 研究時報, 22巻, p. 394.
季節予報指針上巻 (1971) : p. 101.

第16期 第15回常任理事会

議 事 録

日 時 昭和47年1月24日 15.00~19.30

場 所 気象庁観測部会議室

出席者 山本・大田・関原・関口・神山・駒林・藤原・小平・川村・大井・伊藤・北川・岸保各常任理事

列席者 鈴木庶務委員

報告抜萃

[庶務]

1. 12月27日 昭和47年度秋季大会実行委員長から、会場は新潟市上大川前通り7, 新潟商工会議所に決めたことと通知があった。

2. 1月10日 日本学術会議地物研連委, 陸水分科会主任速水頌一郎氏から、第9期の委員候補者1名(あるいは2名)を当学会から推薦してほしいと依頼がきた。期日2月10日。

3. 1月12日 W.M.O. 海洋技術会議副議長気象庁海洋気象部長今井一郎氏から、本年10月2日~7日東京で開かれる W.M.O. 海洋技術会議における講演希望者は題目, アブストラクト, 所要時間等を1月末日までに海洋気象部長あてに送付するよう関係者に周知方の依頼がきた。

4. 12月24日 文部省大学学術局国際学術課から、大気放射国際会議の寄付金の免税についての文部省の意見書を大蔵省に発送したと連絡があった。

[集誌] 投稿規定を一部変更する。

天気, 集誌, ノートの性格をはっきりさせるために、これら編集委員会の間で検討会をもち、その結果を常任理事会へ提出する。

[天気] Vol. 19 1月号の予定目次報告。

手持ちの論文原稿が少なくなったので投稿をお願いしたい。

[外国文献集] 会費滞納者に対する処置をどうするか、今後発行の予定報告。

[学術会議] 現在ある特別委員会の再編成を検討することとなった。

[学会賞・藤原賞] 各賞の候補者推せん候補者選考の報告。

[ノート] 第107号(環境汚染特集号)を約100箇所の官公署にPRした。

[正野記念論文集] 現在少しづつ著者校正にまわっている。

議 題

1. 学術会議地球物理学研究連絡委員会気象分科会委員推薦について

気象庁長官, 気象研究所長, 気象庁観測部長, 山本義一(東北大), 孫野長治(北大), 岸保勘三郎(東大), 磯野謙治(名大), 山元竜三郎(京大), 沢田竜吉(九大), 神山恵三(気研)以上10名を推薦する。

2. 同陸水分科会委員推薦について

磯野謙治会員を推薦する。

3. 昭和47年度の学会賞, 藤原賞受賞候補者について
学会賞: 大山勝通・山岬正紀

「台風の数値実験および熱帯波動じょう乱の不安定理論」

藤原賞: 荒川秀俊

「研究および著述を通しての長年にわたる気象力学ならびに気象熱力学への貢献および日本の気象災害史の研究」

これらを候補として、選定理由書を添付して全理事に審査を依頼する。

(以下132ページにつづく)

第 2 表

被 検 者	皮 膚 の 反 射 率						三 刺 激 値		
	登 山 前			登 山 後			x	y	z
	500	600	700nm	500	600	700nm			
KAN.	17.5	31.5	45.9	14.0	21.0	37.5	26.28 (18.45)	24.01 (16.78)	15.79 (12.10)
SUZ. *	17.0	30.5	47.5	18.0	33.0	51.0	25.78 (27.42)	23.38 (24.83)	15.66 (16.40)
SHI. *	15.0	26.5	42.5	11.0	29.0	46.0	22.59 (24.61)	20.85 (22.65)	13.30 (14.83)
EZA.	12.5	26.0	43.5	14.0	27.5	43.5	21.77 (22.95)	19.92 (21.05)	11.80 (13.15)
Oku. *	14.0	16.0	42.2	12.5	23.0	41.5	22.34 (19.68)	20.49 (17.60)	12.65 (11.50)
Miu.	16.5	31.0	49.0	15.0	27.5	44.0	25.54 (21.70)	22.85 (19.57)	14.00 (12.02)
YAZ.	19.5	32.5	50.5	22.5	37.0	52.5	27.41 (30.57)	25.23 (28.65)	18.11 (20.69)

ただ、これの測定には赤外分光器がいるということが一つの難点である。

しかし、気象研究所のみならず、各大学の理学部にはほとんど設備されているので、その機関と連繋を得れば、赤外分光器を使用することができよう。ただ、現在

薄片を多量に作るというわけにはいかないもので、この方面が十分に開けられれば、大方の需要に答えることができるであろう。

ポリエチレン薄片の調製を初め多大のご援助をいただいた神谷武氏、森田実氏らに謝したい。

(以下 120 ページのつづき)

4. 大気放射国際シンポジウムについて

1972年大気放射国際会議寄付金特別会計運用規定、同細則を承認する。

寄附金入金63万円、寄附内諾 125 万円の報告を承認する。

この特別会計の経理は事務局総務部長が取扱う。

5. 会費増額と総会提出議題について

会費増額：会費増額については了承する。

総会提出議題

- 1) 会費値上げに伴う定款の一部改正について
- 2) 奨励金を 3 件にする。

以上 2 件とする。提案理由等細部は手なおして地方の理事および各支部長あてに照会し意見を次の常任理事会までに出してもらい、次回の常任理事会で更に検討する。

6. そ の 他

- 1) 春季大会シンポジウムについて

題 目 「AMTEX 観測計画」

司 会 窪田・曲田・浅井

経過報告 山本

話題提供

イ AMTEX の目的 片山

ロ Core experiment (レーウインゾンデ観測、飛行機観測)について 光田

以上各氏を担当とする。

2) 秋季大会シンポジウムの題目について

「日本海沿岸地域の降雪の問題点」という案もだが、さらに東京管区气象台と協議する。

3) 気研ノートの PR に関連して次の諸点を進める。
大気公害を担当する官公署に団体会員として入会をすすめる。

夏期大学のテーマとして環境汚染特集号を利用する講座を設ける。

研究ノートの既刊号を列記して PR する。

承認事項 田辺正三外 8 名の入会を承認する。